

施設	偕行会リハビリテーション病院
所属部署	2階 看護部
入職年	2005年入職
氏名	I・Sさん



2005年5月偕行会リハビリテーション病院へ入職。
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得してから5年目となる。

①認定看護師の資格取得制度

入職10年目に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得した、I・Sさん。

(I・Sさん)

「私は入職10年目の時に認定看護師の資格を取得しました。
きっかけは上司にすすめられたことや、偕行会には認定資格制度とって、
仕事を休んでいる期間の給与や学費等の金銭面のサポートがあり、安心して新しいことに
挑戦することができました。」

資格取得のために学校へ通われた (I・Sさん) どんな様子だったのでしょうか？

(I・Sさん)

「半年くらいの期間を要して資格講習が行われます。
この半年強の中で段々と内容が難しくなり休息も無く、勉強する日々が続きました。
とても苦しかったのですが、共に勉強している仲間と支えあい、励まし合えたことや新しい
知識が増えることが楽しかったため
最後まで諦めず資格を取得することができました。」

②認定看護師としての役割

認定看護師の資格を取得してから今までの働き方をみつめ直したそう。

(I・Sさん)

「私は今まで“なんちゃって看護師”だったことに気がつきました。何が原因で病気を発症したか、病気と患者さまの繋がりや背景を考えるとなく、今の状態に必要な処置の方法など表面的なことしか考えず、患者さまと関わってきただけに気がつきました。

しかし、資格を取る為に学び、知識が増えたことで病気と患者さまの繋がりがわかるようになり、より患者さまに寄り添える看護をおこなうことができるようになりました。」

しかし、病院初の認定看護師の資格取得者としてどう行動したら良いか悩んだそう。



(I・Sさん)

「上司からの“自由にやっていいよ”という言葉に戸惑いました。病院初の資格取得者だったので、職員への働きかけ方や学んだことをどう活かして看護をすべきなのかわからないことがたくさんありました。

そんな時、意識障害のある若い患者さまが入院してきました。

寝たきりの状態で気管切開、経管栄養で管理、頭部も不安定な状態でした。

“なんとかしてあげたい”という一身で背面開放座位を毎日看護師が協力して行った結果、覚醒度があがり、

最後は歩いて帰れるまで回復しました。

この患者さまをきっかけに病棟で看護師が生活に着目したりハビリを行うようになりました。

偕行会リハビリテーション病院ではこれを“ナースリハビリ”と称し、日常生活動作確立に向け、患者さま個々に合わせた環境設定や移乗、移動動作の訓練、トイレ動作や失見当識への働きかけなど生活の再構築に向けた方法を検討し取り組んでいます。

また、現在では脳卒中の再発防止として患者さまと家族に向けた疾患指導に尽力をしています。」

③回復期の魅力とは



もともと急性期病院の外科で働いていたI・Sさん。
そんなI・Sさんが思う回復期の魅力とは。

(I・Sさん)

「患者さまの真の喜びに関われるところが魅力的だと思います。
急性期病院で働いていた頃は、患者さまが亡くなることが多々あり、それがすごく悲しかったです。
しかし回復期という分野は、社会復帰される患者さまの回復していく様子を一番身近で看ることが出来ます。
例えば経管栄養だった患者さまが口から食べれるようになるという回復の過程に携わることが出来ます。
患者さまの社会復帰を意識しながら働くことで、患者さまの真の喜びに関われる魅力的な分野だと思います。」

最後に就職活動中の看護学生さん及び看護師の方へ一言メッセージを

(I・Sさん)

「回復期看護師の魅力ややりがいを見つけることは、少し大変かもしれませんが。でも常に患者さまと向き合い、患者さまの声に耳を傾けていればきっと見つかるはずで

す。看護師は大変な仕事ですが、患者さまと共に喜び合うことができた時に、急性期では体験できなかった感情が芽生えると思います。

障害克服の過程にいる患者さまと一緒に回復期看護師として成長していくのも楽しいと思います。」